

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第 2 号

キウイフルーツかいよう病の発生について(第 I 報)

昨年 4 月に県内で初めて発生を確認したキウイフルーツかいよう病(Psa 3 系統)を、本年では、はじめて 4 月の調査で確認しました。

5 月頃までは病原菌が活発に増殖し、新葉や新梢などが感染しやすいので、早期に病徴を発見し、防除対策を徹底して発生の拡大防止に努めましょう。

1 対象作物名：キウイフルーツ

2 病虫害名：かいよう病(Psa3 系統)

3 発生状況

本年 4 月、県南部地域の調査で、かいよう病の疑いの高い樹を確認し、病斑部分から病原菌を分離し、PCR 検定をしたところ陽性であり、4 月 6 日にかいよう病(Psa3 系統)の発病を確認した。

4 病徴及び生態

別添の「キウイフルーツかいよう病」についてを参照

5 防除対策

- (1) ほ場を定期的に観察して樹液の漏出等(写真 1、2)の病徴の早期発見に努め、発生が疑われる場合は、速やかに関係機関へ連絡する。
- (2) 器具や人への病原菌の付着による伝染を防ぐため、園地内の衛生管理を徹底する。
  - ① 器具の使いまわし等を行わない。ハサミやノコギリ等の器具は、次亜塩素酸ナトリウム水溶液(ハイター等)で消毒して使用する。
  - ② 園地に入出入りする際は手を 70%アルコールで消毒し、靴底の泥を落とし、消毒する。
  - ③ 収穫かごやキャリーに植物残渣を混入させない。
  - ④ 園地から立ち去る前に、すべての服、帽子、靴についた植物残渣は除く。
  - ⑤ 発生園で作業した場合は、そのままの服装で他の園へは行かない。
- (3) 薬剤を定期的に散布することにより、感染を防止する。
  - ① 発芽後から叢生期(新梢長約 10 cm)までは、銅水和剤を中心に登録薬剤を定期的に散布する。  
※ カスミンボルド-1,000 倍、銅パーシン水和剤 1,000 倍またはコサイド 3000 の 2,000 倍を散布する。(各薬剤散布時には葉害軽減のため炭酸カルシウム剤 200 倍を加用)

②叢生期から開花期までは、銅水和剤あるいは抗生物質剤を定期的に散布する。

なお、銅による薬害が出やすいため、薬剤の選定等に注意する。

※ コサイド3000の2,000倍を散布する。(薬害軽減のため炭酸カルシウム剤200倍を加用)

③4月下旬以降はアグリマイシン100の1,000倍(使用時期:落花期まで)、アグレプト水和剤1,000倍(使用時期:収穫90日前まで)、マイシン水和剤(使用時期:収穫90日前まで)またはカスミン液剤400倍(使用時期:収穫90日前まで)などを散布する。

④収穫後から発芽前までの休眠期

カスミンボルドー500倍、銅パーシク水和剤500倍、またはICボルドー66Dの50倍を定期的(約1か月間隔)に散布する。特に発生園周辺の園地においては定期的な薬剤散布に努める。

⑤抗生物質剤は残効が短いため、防除適期を外さないように注意し、また、耐性菌発生のリスクが高いため、同一系統の連用は避ける。



写真1 芽枯れ(上段:昨年4月下旬)  
樹液の漏出(下段:昨年4月下旬)



写真2 葉の斑点と花蕾がく片の褐黒変  
(昨年4月下旬)

# 「キウイフルーツかいよう病」について

## ○ 病徴

- 葉**
- ・ 4～5月ごろ、明瞭な淡黄色のハローを伴った不整形の褐色病斑を生じる。大きなハローを伴わない小さな病斑の場合もある。
  - ・ 夏季の高温下では葉の病勢は衰え、病斑は見にくくなる。

- 枝幹**
- ・ 樹液が流動する2月頃から、枝幹（芽の周囲、葉の脱落痕、負傷部、せん定痕など）から白濁した菌泥や赤褐色の樹液が流れ出す。血が流れ出たように見える。

- 花**
- ・ ガクが褐色～暗褐色に変色。ガクが侵されると花弁が淡褐色に変色。
- ⇔ 花腐れ細菌病の場合は花弁や雄しべも褐変する。



〔葉の病徴〕



〔花の病徴〕



〔枝幹の病徴〕

## 生態

**病原体：**バクテリア（細菌）

**感染時期：**・早春～初夏（3～5月）、秋～初冬（10～12月）  
・増殖適温：10～20℃

**伝染方法：**・伝染源は罹病樹から流れ出す菌泥で、春や秋の強い風を伴った降雨により飛散する。葉や新梢から感染し、周囲の樹、園地へ拡大する。  
・その他 樹体の接触による傷口感染  
ハサミなどの器具の使い回し  
罹病樹から採取した穂木の接ぎ木  
罹病苗木の持ち込み  
・土壌伝染はしない。

**発生しやすい条件：**・春と秋の風当たりが強い。  
・寒気が停滞しやすい。  
・秋の冷え込みが早く春が遅い。

**考えられる被害：**

- ・「レインボーレッド」や「ホート16A」などは本病の影響を受けやすく、数年で枯死することがある。
- ・「ハイワード」では、枯死しにくいですが、減収などの影響が出る。

## ○ 防除対策

- ・一度感染すると根本的な治療方法は無い。罹病樹は伐採する。
- ・健全な苗木、穂木を使い、菌を侵入させない。
- ・ノコ、ハサミなどの作業器具の消毒
- ・生垣やネットによる防風対策
- ・薬剤防除は、抗生物質・銅剤などの登録はあるが、感染しないように予防的に使用する。

**疑わしい症状を発見したら、**

**速やかにJA、普及指導センターへ連絡を！！**